



所在地：〒135-0044
東京都江東区越中島 3-5-10
電話：03-6458-5603
FAX：03-6458-5605

メール：union@jtsu-e.com
HP：https://jtsu-e.com
発行人：佐々木 宏 充
編集人：坂 元 隆 史



～地域と一緒に～ 水郡線

水

郡線は水戸市から久慈川沿いに
県央・県北地域を進み福島
中通りを結ぶ路線で沿線には日本三名
瀑の「袋田の滝」があり紅葉シーズン
には多くの観光客が訪れます。
水戸地本エルダー連絡会では矢祭町
のNPO法人「まちひと みらい」の
方と意見交換会を行ってきました。「ま
ちひと みらい」は、少子高齢化を
抱える中において矢祭町の資源を活用

した「田舎暮らし体験ツアー」「援農ツ
アー」などを企画しており、交流人口
をつくり出しています。
矢祭町には「戸津辺の桜」という名
所もありますが、観光資源を活かすま
ちづくりに「公共交通」「鉄道」が改め
て必要であり、鉄道を守らなければな
らないことを実感しました。今後も沿
線地域の方々と連携して地域交通と鉄
道のあり方を考えていきます。



TOPIC

水戸・東京・八王子地本レールクラブ合同団臨
「トキ鉄ワイド満喫号の旅」
を開催！



全 国の第三セクターの経営状況は厳しい
状況が続いていますが、5月29日、6
月27日「えちごトキめき鉄道株式会社」のご協
力のもと、国鉄時代に走行していた「455系・415
系」の車両を貸切り「トキ鉄ワイド満喫号の旅」
を開催しました。北陸新幹線開業による並行在来
線の第三セクター化により誕生した「えちごトキ
めき鉄道」は、鉄道を一つの魅力として地域の観
光の活性化を行い、鉄道と地域のつながりを大切
にしています。

編集後記 JR 各社の繁忙期輸送はコロナ禍以前まで回復し、多くのお客さまに利用されております。「アフターコロナ」と
いう言葉が消えつつある今、開催を我慢していた「地域のイベント」も再開し、地方が活気付いているのではないで
しょうか。数年前の「需要はコロナ前には回復しない」という JR 東日本経営幹部の発言もありましたが、現実
にそのようなことはなく、今こそ地域とともに歩み続けていく鉄道会社を労働組合からつくり上げていきます。



◆ 「みどりの窓口」混乱の舞台裏
◆ 安全な鉄道を実現するために
◆ く地域と一緒にく 水郡線

鐵路のある風景

～水郡線 西金駅～
中央本部 広報部

輸送サービス労組定期大会を開催！



輸送サービス労組は7月7日に「第7回定期大会」
を開催し、今後1年間の方針を決定しました。また、
新たな地方機関として「新幹線地方本部」を結成し、
組合員の拠り所が6地本体制となりました。
会社の施策による多くの利用者からの不満や要望
が山積している現状に対して、私たちは働く労働者の
立場から「働くすべての人たちの「いのち」を守り、利
用される皆さまが「安全」に「安心」して利用できる
JR 東日本」をつくり出すために奮闘して参ります。

～安全な鉄道を実現するために～

「いのち、守る！鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される安全な鉄道を実現する8・12集会を開催



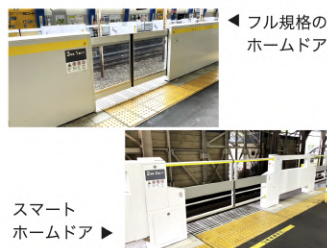
1985年8月12日、日本航空123便が御巣鷹の尾根に墜落し、512名もの命が奪われました。事故から39年、同じ公共交通機関であるJR東日本の鉄道の安全をつくり出すために多くの組合員や国会議員や地方議会議員の皆さんと集会を開催し、JR東日本の安全性再確立に向けた討論を行いました。

JR東日本首都圏での「ワンマン運転」

運転士の負担大幅増加で 「安全性維持」に懸念

現在、JR東日本では3〜6両編成による「中編成ワンマン運転」(相模線、八高線、常磐線など)が実施されています。今後これを更に拡大させ、首都圏において7両編成以上の「長編成ワンマン運転」として常磐線各駅停車、南武線、横浜線、山手線、京浜東北・根岸線などで順次導入していくと発表しています。

集会では「中編成ワンマン運転」によって発生している「あわや死傷事故」にもなり得る事象があとを絶えずに発生していることやその対策もおおざなりとなっていること、懸念されていることなど、非常に多くの発言がされました。集会に参加された議員の方々からは、「あの両数の車両を1人で運転するのは考えられない。何かあったら対応できないのは明らか」「長編成ワンマン運転導入線区沿線の自治体で、議員同士も連携していきなさい」との感想も出されました。



ワンマン運転に携わる組合員から出されたワンマン運転における課題

- フル規格ではなくスマートホームドアの採用で、隙間から飛び出したお客さまの手や体が列車に接触する恐れがある
- 列車が発車後にホーム上のお客さまと接触しても気付けない
- 異常時などで電車が遅れた際の振替輸送や迂回経路の案内ができない

現在、営業列車で車掌の担っている役割は、次のような作業があります。

- 駅ではホーム上の乗客の乗り降りを確認し、安全にドアの開閉を行う
- 通常運行時の車内案内や輸送障害時の案内放送
- 車内秩序維持、運賃の収受、精算
- 災害・事故や車内トラブルなどの異常時における列車の防護や避難誘導

ワンマン運転では、これらすべてを運転士が行うこと(一部は省略・廃止)になります。また、利用者ご自身も委ねること多くなることから、特に輸送密度の高い首都圏への「長編成ワンマン運転導入」による安全・サービスレベルの低下が懸念されます。

首都圏の「JR」を心配する利用者の声

輸送サービス労組のホームページには利用者から多くの不安の声が寄せられています。

- ◆ ワンマン運転の実施は、乗客を危険にさらし、サービスを著しく低下させ、JR東日本のグループ理念にも反するのではないかと心配
- ◆ 運転士の負担が増えてしまい安全運行に影響があるのではないかと心配
- ◆ ワンマン運転が実施されるとご当地発車×ロデイが無くなるのではないかと。ご当地×ロデイがあると路線や駅に愛着が湧くのでもせひ残して欲しい



皆さんのご意見やご感想をお寄せください



「削減計画」を突如「凍結」すると発表したJR東日本・・・ 「みどりの窓口」混乱の舞台裏



2021年5月、JR東日本はコロナ禍での利用率低下を受け「みどりの窓口の削減計画」を発表しました。当時、JR東日本管内で営業していた窓口の数は440駅でしたが、3年間で212駅まで削減され、さらに削減する計画が推進されていました。しかし、2024年5月8日、JR東日本は「みどりの窓口削減方針の一時凍結」と「最繁忙期の1ヶ月前の売り場に対応するための期間限定の「みどりの窓口の増設」を発表しました。その背景には、アフターコロナでの需要(通勤・通学、国内旅行、出張利用など)の回復やインバウンド需要の増大による残置駅の窓口への利用が集中したことや慢性的な混雑と利便性の悪化などの公益性の低下が社会問題化し、強い批判を受けたことによるものです。

しかし、JR東日本で働く多くの社員は、この発表をニュースで知ることになりました。また、すでに削減された人員では対応できず、実際に増設に至ったのはわずか数駅のみとなりました。

輸送サービス労組は団体交渉でこれらについて指摘するもJR東日本は「お客さまにご迷惑をお掛けしたのは事実」としながらも「経営判断の失敗の認識はない」と述べています。

地域発進!

～ 未来の“駅”とは ～

八王子地方本部 三多摩支部



利用者の声を聞く街頭行動!

今年3月15日「利用者の声を聞くための街頭調査」を都内の複数の駅付近で実施し、JR東日本の利用者の方皆さんへ「みどりの窓口」の廃止に対するお考えやご意見を伺いました。利用者の方々からは「絶対にあつた方がよい」「ぜひ営業を再開して欲しい」など、切実な声が数多く出されました。

未来の駅はご想像すべきなのか

八王子地本三多摩支部は「これからの駅を考える会議」を開催しました。参加していただいた吉本ゆうすけ小平市議会議員と丸鬼ともみ八王子市議会議員からは「地域と協力し問題解決に取り組んでいきたい」とあいつつ受けました。会議では、みどりの窓口の混雑状況や要員体制の問題など、いま、駅で起きている実態を共有しました。今後も安全に安心してご利用いただける駅の実現をめざして地域・利用者の方々と取り組んでいきます。